Ⅵ　水産業

1　主要水産物紹介

【ズワイガニ】

○鳥取県のズワイガニ

鳥取県では成長したズワイガニの雄を“松葉がに”、雌を“親がに”、脱皮直後の雄を“若松葉がに”と呼び、県を代表する冬の特産物となっている。

11月初旬から沖合底びき網漁業により水深200～500m付近で漁獲される。平成3年には309tまで漁獲量が減少したが、資源管理に積極的に取組み、近年は1,000t前後で安定している。平成27年猟期から厳しい基準を設けたトップブランド「五輝星」が誕生し、平成28年の初競りでは１枚130万円の競り値がつき話題となった。

○代表漁港

境漁港、鳥取港、網代漁港

○ズワイガニの漁獲量と全国シェア

漁獲量（トン）		1位	2位	3位	4位	5位
鳥　取	全　国					
932 21.1%	4,412	兵庫県 24.1%	北海道 22.1%	鳥取県 21.1%	福井県 10.4%	石川県 9.9%

（農林水産省：平成27年漁業・養殖業生産統計年報）

【カニの消費量】

全国県庁所在地及び政令指定都市のカニ消費量を比べると、鳥取市の１人当たりの消費量は全国第1位。全国平均の約5倍と、カニ好きな県民性がうかがえる。

単位：ｇ

1位 鳥取市	2位 金沢市	3位 福井市	4位 松江市	5位 津市
2,671	2,111	1,750	1,036	911

（総務省：家計調査(二人以上の世帯)都道府県庁所在市及び政令指定都市別ランキングH26～H28平均）

＊全国平均：532ｇ

【イワガキ】

○鳥取県のイワガキ

日本海の海の滋味を詰め込んだイワガキは夏の主役である。素潜りやボンベ潜水で漁獲される。大きいものは長さ20cm、重さに至っては約1kgになるものもある。

イワガキは夏の産卵期が近づくにつれ、丸々と身が太り、味が良くなり、「海のミルク」と称されている。現在、県産のイワガキを「夏輝（なつき）」と称してブランド化しており、漁業者は型の良い大型（殻高13cm以上）のイワガキには、ブランドラベルを取り付けて出荷している。漁業者はイワガキを今後も継続して漁獲できるよう、資源管理に取り組んでいる。

○代表漁港

赤碕港、鳥取港、網代漁港、境漁港、皆生漁港

【ハタハタ】

○鳥取県のハタハタ

鳥取県で沖合底びき網漁業により漁獲されるハタハタは、全国的にも上位の漁獲量を誇る。

平成19年度からは、県産ハタハタのマスコットキャラクターを「はた坊」とし、県内外にＰＲしている。

山陰沖合に回遊してくるハタハタは、産卵群ではなく、餌を求めて回遊してくる索餌回遊群のため、漁獲シーズンを通して脂の乗りが非常に良く、うまみが強いことから（全長20㎝以上のものは平均10％以上の脂質含有量）、平成22年10月から、全長20㎝以上のハタハタを「とろはた」としてブランド化している。

○代表漁港

境漁港、鳥取港、網代漁港

○ハタハタの漁獲量と全国シェア

漁獲量（トン）		1位	2位	3位	4位	5位
鳥　取	全　国					
1,647 18.5%	8,909	兵庫県 29.3%	鳥取県 18.5%	秋田県 12.9%	青森県 12.1%	石川県 9.7%

（農林水産省：平成27年漁業・養殖業生産統計年報）

【ベニズワイガニ】

○鳥取県のベニズワイガニ

ベニズワイガニはかご網漁業で漁獲され、境港は全国１位の取扱量を誇り、全国漁獲量の約6割が境港に水揚げされている。しかし、近年漁獲が減少したことから、漁業者は資源を増やすための資源回復に取り組んでいる。

ベニズワイガニの加工は境港の重要産業であり、様々な加工品が作られている。さらに、カニの甲羅に多く含まれるキチン・キトサンは医薬品や健康食品に利用されている。

○代表漁港　境漁港

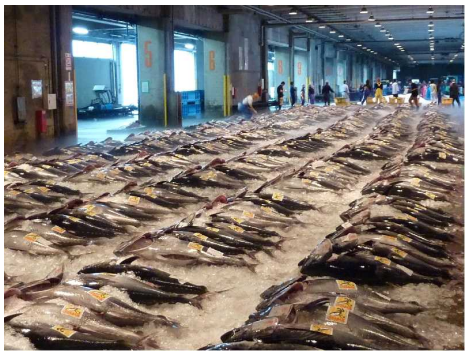
○ベニズワイガニの漁獲量と全国シェア

漁獲量（トン）		1位	2位	3位	4位	5位
鳥　取	全　国					
3,977 23.5%	16,899	鳥取県 23.5%	島根県 18.3%	兵庫県 14.3%	新潟県 14.0%	北海道 10.9%

（農林水産省：平成27年漁業・養殖業生産統計年報）

【クロマグロ】

○鳥取県のクロマグロ



境港では、クロマグロのうち30㎏未満を“よこわ”、それ以上を“まぐろ”と呼んでいる。

クロマグロは、日本海では、主に6～7月にかけて秋田沖～山陰沖で大中型まき網漁業により漁獲される。

多くのクロマグロを一度に処理できる体制（大型船入港、内臓除去、買受能力など）が整っている境港には、日本海で漁獲されたクロマグロのほとんどが水揚げされている。

現在、境港では、クロマグロを夏場の観光資源として地域活性化に活かすため、市場の見学ツアーや内臓の魚醤油利用及び飲食店での料理提供が行われている。

○代表漁港　境漁港

○クロマグロの漁獲量と全国シェア

漁獲量（トン）		1位	2位	3位	4位	5位
鳥　取	全　国					
747 13.0%	7,628	青森県 14.7%	長崎県 14.4%	鳥取県 9.2%	宮城県 8.5%	静岡県 8.4%

（農林水産省：平成27年漁業・養殖業生産統計年報）

2　水産業の概要

本県の海岸線の総延長は129kmで、東部と西部に天然礁が存在するが、海岸の多くは凹凸、起伏の少ない砂浜域が占めている。このため、沿岸漁業では砂浜域に生息するヒラメ等が漁獲の主体となっていたが、近年はサワラ、ブリ類といった回遊魚の漁獲が増加している。

また、沖合は対馬暖流と山陰若狭冷水で形成される海域であり、表層では回遊性のクロマグロ、アジ等、底層ではズワイガニ、アカガレイといった底魚類が漁獲される。

本県には、現在5つの沿海漁業協同組合がある。平成8年7月に鳥取県信用漁業協同組合を中心とした沿海漁協の信用事業を統合し、また、14あった沿海漁協のうち平成10年4月には東部5漁協が合併し鳥取中央漁協となったのを皮切りに、平成15年7月に県下の9漁協が合併し、鳥取県漁協となり（10月に1漁協合併）、16年2月には鳥取県漁業協同組合連合会を包括承継した全県を組合地区とする漁協が誕生した。なお、5つの沿海漁業協同組合以外に業種別漁業協同組合が3組合、内水面漁業協同組合が5組合ある。

本県漁業を取り巻く情勢は、新日韓漁業協定に基づく暫定水域の設定等により大きな影響を受けているとともに、漁場環境の悪化、水産資源の減少、後継者不足及び漁業就業者の高齢化、燃油価格の乱高下、消費者の魚離れ等の問題に直面しており、厳しい状況にある。

本県漁業は、漁船漁業が主体となっており、刺網漁業、小型底びき網漁業、釣漁業を主体とした沿岸漁業と大中型まき網漁業、沖合底びき網漁業等を主体とした沖合漁業に分けられる。また、本県西部の美保湾でのギンザケ養殖をはじめ、港湾を利用したワカメ、イワガキ養殖、ヒラメ、ギンザケ、マサバ等の陸上養殖、内水面のサケ・マス類の養殖など多様な養殖業が行われている。

このような状況にあって、おいしい鳥取の水産資源を安定的に供給する仕組みをつくるため、①経営が安定し、収益性の高い儲かる水産業の実現、②漁業経営体の減少に歯止めをかけることをミッションとして、水産業の体制強化と活気に満ちた漁村の実現に取り組んでいる。

主な漁業種類の経営体数の推移

単位：経営体

漁業種類	昭和50年	60	平成2年	7	12	17	20	25
小型底びき網漁業	165	152	145	143	103	72	50	32
刺網漁業	413	404	368	289	197	166	164	111
沿岸いか釣漁業	540	703	571	501	528	593	113	104
船びき網漁業	9	103	25	5	10	3	6	2
沖合底びき網漁業	56	55	50	45	37	30	28	26
まき網漁業	9	7	4	4	3	4	8	6
近海いか釣漁業	109	39	21	19	11	5	6	3
べにずわいがに漁業	15	16	13	9	8	7	5	3

資料：鳥取農林水産統計年報
注１：沿岸いか釣漁業、近海いか釣漁業、べにずわいがに漁業は漁労体数（単位：統）を示す。水産課調べ。
注２：H20いか釣漁業は経営体数を示す。
注３：H20沿岸いか釣漁業には「近海いか釣漁業」を含む。
注４：H20、H25大中型まき網漁業には「大中型まき網」及び「中小型まき網」を含む。

経営階層別経営体数の推移

単位：経営体

区分＼年次		昭和50年	60	平成2年	7	12	17	20	25
総経営体数		1,334	1,453	1,247	1,087	954	887	818	669
漁船非使用		98	714	53	39	39	27	45	44
無動力船		25	6	3	3	1	1	1	－
動力船	船外機付漁船	－	－	－	－	－	－	258	228
	0 ～ 1ｔ	421	421	397	352	275	284	8	2
	1 ～ 3	318	244	204	173	150	142	131	97
	3 ～ 5	247	371	344	302	299	273	259	204
	5 ～ 10	44	177	112	90	80	75	50	39
	10 ～ 20	6	19	23	28	30	23	17	11
	20 ～ 50	18	8	8	7	9	6	3	2
	50 ～100	75	69	49	42	39	31	30	23
	100 ～500	9	17	15	15	11	9	6	8
	500ｔ以上	8	4	4	4	3	2	2	3
	小計	1,146	1,330	1,156	1,013	896	845	764	617
定置網		7	5	6	4	3	2	2	3
地びき網		56	37	19	16	6	5	－	3
海面養殖		2	4	10	12	9	7	6	5

資料：2013年漁業センサス、水産課調べ。

海面漁業生産量及び生産額の推移（属人）

区分＼年次	昭和50年	60	平成2年	7	12	17	22	24	25	26
生産量（千トン）	156.4	328.6	344.3	156.9	77.8	59.8	66.0	56.8	56.4	67.4
伸長率（%）	100	209	219	100	50	38	42	91	99	120
生産額（百万円）	15,276	22,786	23,054	22,162	16,808	15,724	15,822	14,631	14,637	18,406
伸長率（%）	69	103	104	100	76	71	71	87	100	126

資料：鳥取農林水産統計年報、漁業養殖業生産統計年報

日本海側最大の漁業基地の境港

境港は、隠岐島周辺の好漁場に近く、また島根半島による天然の防波堤に恵まれ、古くから漁業の町として栄えてきた。まき網漁業、かにかご漁業、いか釣漁業が盛んで、平成4年から8年までは水揚げ量日本一を誇っていた。

主な魚種は、アジ、サバ、イワシ類、ブリ類、スルメイカ、ベニズワイガニ、クロマグロ等である。

平成28年は、マイワシ、スルメイカの水揚げが減少したことが影響し、平成27年水揚げ量の12万6千トンを下回る10万7千トンの水揚げ量となった。

なお、平成27年度の水揚げされた主要魚種の用途別出荷割合は、生鮮食用約8%、加工向け18%、養殖用又は漁業用飼料向けに約74%となっている。

全国漁港の水揚げ量（H28）

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
漁港	銚子	焼津	長崎	釧路	境港	枕崎	八戸	石巻	松浦	気仙沼
水揚げ量(千ﾄﾝ)	276	155	126	114	107	107	99	95	80	76

サバ	アジ	マイワシ	ブリ類	ベニズワイガニ	ウルメイワシ	カタクチイワシ	その他
24.3	20.5	16.0	15.1	8.2	4.4	3.4	15.6

千トン

資料：(一社) 漁業情報サービスセンター
注：輸入、陸送を含む

境港の水揚げ量及び水揚金額の推移（属地）

区分　年次	昭和50年	60	平成2年	7	12	17	22	25	26	27	28
水揚げ量（千トン）	166.8	404.7	556.9	293.3	140.7	92.5	118.6	136.1	115.7	126.2	107.5
伸長率（%）	57	138	190	100	48	32	40	46	85	109	85.2
水揚金額（億円）	161	297	293	295	196	164	154	178	192	206	209
伸長率（%）	55	101	99	100	66	56	52	60	107	107	101

資料：鳥取農林水産統計年報(～H17)
注：輸入、陸送を除く
資料：境港魚市場水揚統計(JAFIC)(H18～)
注：輸入を含む

主な漁業種類別の概要（属人）

主な漁業種類	主な港	漁獲対象種	漁獲量(トン)			
			H22	H24	H25	H26
沿岸漁業	境、御来屋、泊、赤碕、酒津、淀江、鳥取、夏泊等	ハマチ、サザエ、スルメイカ、アカイカ、サワラ等	7,272	5,858	5,987	5,439
沖合底びき網漁業	境、鳥取、網代、田後	ハタハタ、ズワイガニ、アカガレイ等	6,123	7,051	6,082	6,275
大中型まき網漁業	境	アジ、サバ、クロマグロ	x	x	x	x
べにずわいがに漁業	境	ベニズワイガニ	－	－	－	－
近海いか釣漁業	境	スルメイカ	x	x	x	x

資料：鳥取農林水産統計年報
注：沿岸漁業の漁獲量は、定置網を除く。

海面漁業生産の推移（属人）

区　分		単位	大中型まき網	沖　合底曳網	近海いか釣	べにずわいがに漁	沿岸漁業	その他の漁業	計
昭	生産量	トン	121,899	10,859	8,135	6,164	6,120	2,998	156,175
和	構成比	%	78.1	7.0	5.2	3.9	3.9	1.9	100
50	生産額	百万円	5,548	3,695	2,607	734	1,932	644	15,160
年	構成比	%	36.6	24.4	17.2	4.8	12.8	4.2	100
	生産量	トン	395,611	8,756	1,311	14,220	5,224	2,958	428,080
61	構成比	%	92.4	2.0	0.3	3.3	1.3	0.7	100
年	生産額	百万円	7,518	5,804	795	3,100	3,020	790	22,786
	構成比	%	35.8	27.6	3.8	14.7	14.4	3.7	100
平	生産量	トン	318,322	5,485	1,499	7,795	8,226	1,998	343,355
成	構成比	%	92.7	1.6	0.4	2.3	2.4	0.6	100
2	生産額	百万円	9,364	5,584	619	2,003	4,082	591	22,243
年	構成比	%	42.1	25.1	2.8	9.0	18.4	2.6	100
	生産量	トン	131,480	5,083	1,176	5,178	11,763	1,797	156,477
7	構成比	%	84.0	3.2	0.8	3.3	7.5	1.2	100
年	生産額	百万円	9,719	5,237	474	1,087	4,836	480	21,833
	構成比	%	44.5	24.0	2.2	5.0	22.1	2.2	100
	生産量	トン	43,002	5,540	1,248	6,039	11,628	10,348	77,805
12	構成比	%	55.3	7.1	1.6	7.8	14.9	13.3	100
年	生産額	百万円	4,573	4,491	216	1,437	4,943	1,044	16,704
	構成比	%	27.3	26.8	1.2	8.5	30.0	6.2	100
	生産量	トン	38,518	6,645	1,508	5,374	7,472	196	59,791
17	構成比	%	64.4	11.1	2.5	9.0	12.5	0.3	100
年	生産額	百万円	5,537	4,568	505	1,311	3,361	390	15,724
	構成比	%	35.2	29.1	3.2	8.3	21.4	2.5	100
	生産量	トン	x	6,123	x	－	7,272	2,792	65,957
22	構成比	%	x	9.3	x	－	11.0	4.2	100
年	生産額	百万円	－	－	－	－	－	－	－
	構成比	%	－	－	－	－	－	－	－
	生産量	トン	x	7,051	x	－	5,858	3,038	56,808
24	構成比	%	x	12.4	x	－	10.3	5.3	100
年	生産額	百万円	－	－	－	－	－	－	－
	構成比	%	－	－	－	－	－	－	－
	生産量	トン	x	6,082	x	－	5,987	3,880	56,426
25	構成比	%	x	10.8	x	－	10.6	6.9	100
年	生産額	百万円	－	－	－	－	－	－	－
	構成比	%	－	－	－	－	－	－	－
	生産量	トン	x	6,275	x	－	5,439	4,510	67,382
26	構成比	%	x	9.3	x	－	8.1	6.7	100
年	生産額	百万円	－	－	－	－	－	－	－
	構成比	%	－	－	－	－	－	－	－

資料：鳥取農林水産統計年報
注１：海面養殖は除く
注２：H19年以降、漁業種類別生産額はデータなし
注３：H20べにずわいがに漁は、その他漁業に含む
注４：沿岸漁業の生産量は定置網を除く

3　漁業生産

(1)　沿岸漁業

沿岸漁業は本県沖合のおよそ水深100m以浅の海域において、釣漁業、刺網漁業、小型底びき網漁業等を主幹漁業とし、その他各種漁業を組み合わせて極めて濃密に漁場を利用しつつ操業している。

小型底びき網漁業生産状況

単位：漁獲量＝ｔ、比率＝%

年　次	漁労体数	出漁日数	漁　獲　量							1日労体当たり	
			計	ひらめ	かれい類	たい類	えび類	貝類	その他	出漁日数	漁獲量
昭和50年	269統	14,581日	1,326	132	477	32	72	189	424	54日	4,929kg
平成 2年	179	13,076	726	91	228	58	48	50	251	73	4,056
7年	171	12,700	969	193	329	74	35	42	296	74	5,667
12年	134	7,751	501	18	177	18	23	15	250	58	3,739
17年	108	5,811	358	24	117	19	8	14	176	54	3,315
21年	－	－	344	24	80	57	2	8	173	－	－
22年	－	－	493	41	113	79	3	8	249	－	－
25年	－	－	377	29	51	58	3	28	208	－	－
27年	－	－	236	30	50	32	1	7	116	－	－
対25年比	－	－	63	103	98	55	33	25	56	－	－
構 成 比	－	－	100	12.7	21.2	13.6	0.4	3.0	49.1	－	－

資料：鳥取農林水産統計年報
注：ラウンドの関係で内訳と合計は一致しないことがある。

刺網漁業生産状況（いか流し網を除く）

単位：漁獲量＝ｔ、比率＝%

	漁労体数	出漁日数	漁　獲　量							1日労体当たり	
			計	ぶり類	あじ類	さわら類	たい類	とびうお類	その他	出漁日数	漁獲量
昭和50年	748統	38,310日	1,724	535	25	1	47	182	934	51日	2,305kg
平成 2年	582	28,237	1,025	263	15	39	84	28	596	49	1,761
7年	507	23,973	1,106	416	3	20	174	10	483	47	2,181
12年	450	20,544	1,423	617	259	15	269	17	246	46	3,162
17年	426	15,653	839	312	96	121	136	14	160	37	1,969
21年	－	－	1,397	625	380	54	182	－	156	－	－
22年	－	－	1,306	514	372	68	161	－	191	－	－
25年	－	－	970	329	175	128	169	－	169	－	－
27年	－	－	1,544	1,063	54	205	74	－	148	－	－
対25年比	－	－	159	323	31	160	44	－	88	－	－
構 成 比	－	－	100	68.8	3.5	13.3	9.8	－	9.6	－	－

資料：鳥取農林水産統計年報
注：ラウンドの関係で内訳と合計は一致しないことがある。

(2)　沖合底びき網漁業

70～120t階層漁船を主体に田後港、網代漁港、鳥取港、境漁港を主な基地として、山口・島根県から本県の沖合海域で操業し、ズワイガニ、ハタハタ、カレイ類、クロザコエビ等を漁獲している。

(3)　大中型まき網漁業

130t階層漁船を主体に境港を基地として、日本海、東シナ海、北部太平洋等に出漁し、アジ、サバ、イワシ、クロマグロ等を主な漁獲対象として操業している。

(4) べにずわいがに漁業

130t階層漁船を主体に境港を基地として、大和堆海域、新隠岐堆等の日本海に出漁して操業しているが、深海漁場の開発等の成果を背景に、昭和44年に初めて境港に水揚げされ、その後年々増加して昭和59年に過去最高の漁獲量1万5,084t（鳥取県船）となった。近年は、排他的経済水域及び日韓暫定水域の設定、べにずわいがに資源の低迷、減船等の経緯もあり、資源回復計画の実施にあたり個別割当制がとられ、漁獲量は平成26年は4,314t、27年は3,977tで推移している。

(5) 内水面漁業

内水面における漁業は、3河川（千代川、天神川、日野川)、2湖沼（湖山池、東郷池）で行われており、河川では、アユ、コイ等を、湖沼ではワカサギ、フナ、シジミ等を漁獲している。漁業協同組合はアユ、コイ、フナ、ワカサギ、ウナギ等有用魚類の放流事業や、天然そ上のアユを増やすため産卵場造成等を漁業権管理の一つとして実施して、水産資源の増殖と漁業生産の増大を図っている。また、内水面は県民へのレクリエーションの場の提供という重要な役割も持っている。

内水面漁業一覧表

区分	名称	流程面積	漁業権魚種	漁業権
河川	千代川	223 ㎢	あゆ、いわな、やまめ、にじます、こい、あまご	第5種共同漁業権
	天神川	83 ㎢		
	日野川	153 ㎢	〃 、うなぎ	
湖沼	湖山池	6,930千㎡	しじみ、蓮、わかさぎ、ふな、こい、うなぎ、しらうお、えび	第1種・第5種共同漁業権
	東郷池	4,100千㎡	しじみ、ごかい、ふな、こい、うなぎ、しらうお、わかさぎ、えび、ぼら、すずき	第1種・第5種共同漁業権

資料：水産課調べ

内水面漁獲量の推移

単位：t

区分 / 年次	河川（千代川、天神川、日野川）	湖沼（湖山池、東郷池）	合計
平成 2年	492	173	665
7年	552	296	848
12年	452	427	879
17年	74	－	74
22年	－	199	－
26年	－	68	－
27年	－	127	－
28年	－	133	－

資料：鳥取農林水産統計年報（～H17）
注：平成17年は千代川、日野川のみしか調査対象となっておらず、湖沼については調査が行われていない。
資料：水産課調べ（H22～）

(6)養殖業

海面における養殖業は美保湾（ギンザケ、トラフグ）および県内各地の港内（ワカメ、イワガキ）で行われており、特にギンザケは近年急速に生産量が増加している。また内水面ではマス類養殖の他ギンザケの種苗の生産が盛んに行われている。その他、地下海水を利用した養殖やろ過装置を備えた循環式の養殖など新しい取組みがはじまっている。

単位：ｔ

区分／年次	海面	内水面	合計
平成21年	86	91	177
22年	61	85	146
23年	176	64	240
24年	528	64	592
25年	528	48	576
26年	790	39	829

資料：鳥取県農林水産統計年報

４　漁業経営

１　主とする漁業種類別経営体数

単位：経営体数＝経営体、比率＝％

区分	計	沖合底びき網	小型底びき網	船びき網	まき網	刺網	はえ縄	いか釣	その他の釣	地びき網	定置網	採貝	採藻	その他の漁業	海面養殖
平11	966	38	113	12	10	197	6	186	173	7	3	147	6	57	11
13	937	37	90	7	8	190	7	179	175	6	3	166	5	56	8
15	946	30	82	4	3	187	3	187	205	9	3	142	17	68	6
17	887	30	72	3	4	166	2	182	186	5	2	151	8	50	7
20	818	28	50	6	8	164	3	113	212	－	2	164		62	6
25	669	26	32	2	6	111	4	105	160	2	3	170		43	5
対11年比	69	68	28	16	60	56	66	56	92	28	100	72		75	45
構成比	100	3.8	4.7	0.2	0.8	16.5	0.5	15.6	23.9	0.2	0.4	25.4		6.4	0.7

資料：鳥取農林水産統計年報、漁業センサス(H25)
注１：まき網の内訳は、大中型まき網と中・小型まき網。
注２：ラウンドの関係で内訳と合計は一致しないことがある。
注３：H20採貝・採藻は合計で集計。

２　漁業世帯数及び漁業就業者数

単位：世帯数＝戸、就業者数＝人、比率＝％

区分	計	自営漁業世帯	漁業従事者世帯	漁業就業者						
				計	男子					女子
					小計	15～24歳	25～39	40～59	60歳以上	
平10	1,641	951	690	1,849	1,759	53	221	822	663	90
11	1,540	890	650	1,740	1,650	30	210	730	670	90
13	1,500	870	630	1,640	1,550	20	130	740	670	90
15	1,392	878	514	1,540	1,489	37	146	653	653	51
20	－	－	－	1,568	1,515	63	206	615	631	53
25	－	－	－	1,320	1,286	70	194	473	549	34
対１０年比	－	－	－	71	73	132	87	57	82	37
構成比	－	－	－	100	97	5	14	35	41	2
男子就業者構成比	－	－	－	－	100	5	15	36	42	－

資料：鳥取農林水産統計年報、漁業センサス(H25)
注１：平成１６年から鳥取県分は掲載されなくなった。
注２：ラウンドの関係で内訳と合計は一致しないことがある。
注３：H20、H25世帯数調査なし。

5　栽培漁業の現況

本県では、昭和56年度に栽培漁業センターを開設してからヒラメ、キジハタ、アワビ、サザエ、バイ等の人工種苗の生産・放流や、養殖向けヒラメ、近年では養殖用マサバ種苗の安定量産化試験を実施し、地域水産資源の増殖や安定生産による沿岸漁業および養殖業の振興を図っている。

平成28年度種苗生産及び種苗放流数

単位：千尾（mm）

魚　種	アワビ	サザエ	ヒラメ	キジハタ	養殖ヒラメ	養殖マサバ
種　苗　生　産　数	163(30)	193(9)	60(10)	52(30)	16(80)	150(60)

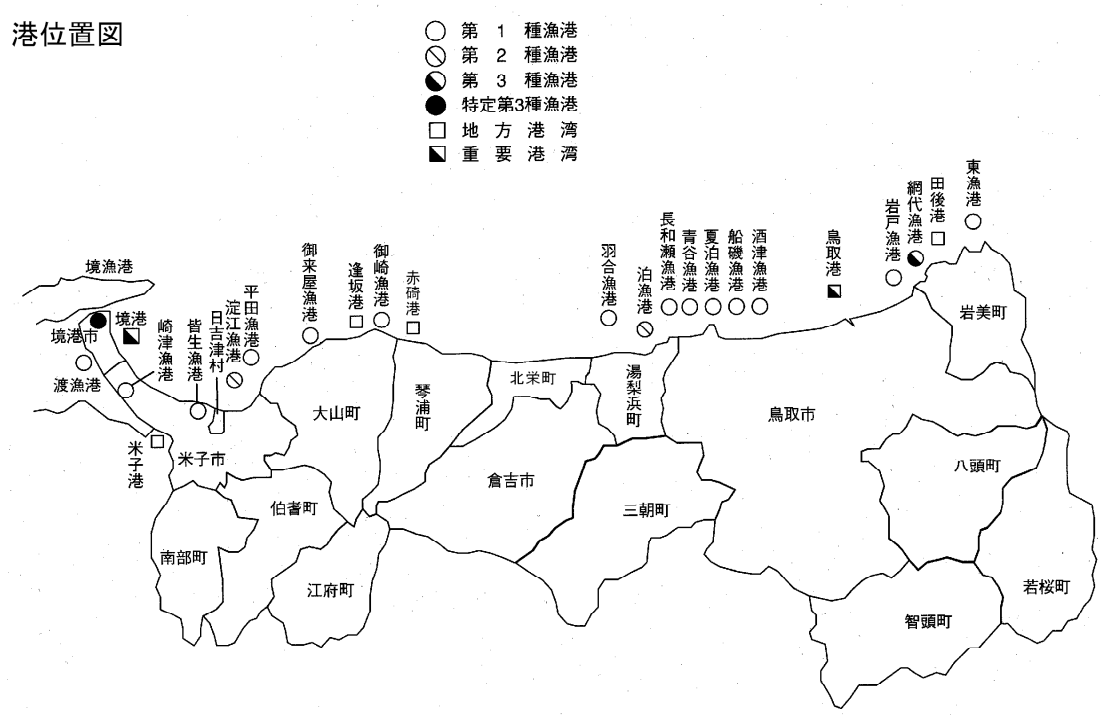
資料：公財）鳥取県栽培漁業協会資料（平成28年度）
注１：括弧内は、大きさを示す。
注２：養殖アワビ、養殖ヒラメの数値は、配布尾（個）数。

6　漁港・港湾

本県には漁業生産の基盤として、漁港が18港、港湾が6港ある。

港の区分状況

区分		港数	名称
漁港	第1種漁港	14	東漁港、岩戸漁港、酒津漁港、船磯漁港、夏泊漁港、青谷漁港、長和瀬漁港、羽合漁港、御崎漁港、御来屋漁港、平田漁港、皆生漁港、崎津漁港、渡漁港
	第2種漁港	2	泊漁港、淀江漁港
	第3種漁港	1	網代漁港
	特定第3種漁港	1	境漁港
港湾	地方港湾	4	田後港、赤碕港、逢坂港、米子港
	重要港湾	2	鳥取港、境港

注：第１種漁港：利用範囲が地元の漁業を主とするもの
第２種漁港：利用範囲が第1種漁港より広く第3種漁港に属さないもの
第３種漁港：利用範囲が全国的なもの
特定第３種漁港：第3種漁港のうち、水産業の振興上特に重要なもの
地方港湾：重要港以外の港湾で、おおむね地方の利害にかかるもの
重要港湾：国の利害に重大な関係を有する港湾で政令で定めるもの

港位置図